

株 主 各 位

大阪市天王寺区烏ヶ辻1丁目2番16号

ゼット株式会社

代表取締役社長 渡辺 裕之

第69回 定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、当社第69回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申しあげます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成30年6月26日(火曜日)午後5時30分までに到着するようご返送くださいますようお願い申しあげます。

敬 具

記

1. 日 時 平成30年6月27日(水曜日)午前10時
2. 場 所 大阪市天王寺区烏ヶ辻1丁目2番16号
当社本社2階(J R 西日本大阪環状線桃谷駅下車西へN T T 西日本大阪病院手前南)(後記案内図をご参照ください。)

3. 目 的 事 項

報 告 事 項

1. 第69期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第69期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)計算書類の内容報告の件

決 議 事 項

- 第1号議案 剰余金処分の件
- 第2号議案 取締役(監査等委員である者を除く。)6名選任の件
- 第3号議案 補欠の監査等委員である取締役2名選任の件
- 第4号議案 役員賞与支給の件

以 上

当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト(アドレス <http://zett.jp/>)に掲載させていただきます。

添付書類

事業報告

(平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続
き、緩やかな回復基調が続きました。一方、国際情勢の不安定さによ
り、先行きは不透明な状況が続いております。

当スポーツ用品業界におきましては、健康志向の高まりや、世界大
会や平昌オリンピック・パラリンピックにおける日本人選手の各種競
技での活躍によって盛り上がりを見せたこともあり、堅調に推移いた
しました。

このような状況の中で当社グループは、①自社品の強化、②卸ビジ
ネスの進化、③新規商品、新規流通の開拓と新規事業へのチャレンジ、
④生産性の向上、⑤人財の活性化・情報システムの整備と高度化・物
流機能の強化、⑥グループ内の連携強化を基本方針とし、業績向上に
努めました。その結果、当連結会計年度の売上高は38,833百万円(前期
比3.7%減)、営業利益は507百万円(前期比73.0%増)、経常利益は588
百万円(前期比61.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は530百万
円(前期比87.8%増)となりました。

当社グループにおける部門別の業績は次のとおりであります。

【卸売部門】

卸売部門は、当社株主様への株主優待制度の新設、オンラインシ
ョップの開始やホームページの改良、また、ゼットベースボール公
式T w i t t e rの充実等によりファン層の拡大に努めました。

「外商・スクール」及び「アスレチックス」マーケットにおいては、日本人選手の活躍もあり競技人口が増加傾向にある卓球用品が好調に推移し、野球・ソフトボール用品も得意先への提案等が評価され堅調に推移いたしました。一方、サッカー用品、学校体育・競技器具、一部の取扱い商品における流通経路変更等のあったテニス・バドミントン用品は低調に推移いたしました。

「ライフスタイル」マーケットにおいては、「T I M B U K 2」ブランドの認知度を更に高めるため、平成29年12月に東京の原宿にオープンした「T I M B U K 2 T O K Y O」に引き続き、平成30年3月に東京の新宿に「T I M B U K 2 新宿マルイメン」をオープンさせました。しかし、「Z e h a」ブランドのカジュアルシューズの取扱い終了や、一部の取扱い商品における流通経路変更等のあったアウトドア用品をはじめ、全体としては苦戦いたしました。

「ボディケア」マーケットにおいては、サポーター類が低調に推移いたしました。また、ライセンスビジネスや、福井県越前市の「家久スポーツ公園」の指定管理者に選定される等、指定管理事業については堅調に推移しました。

この結果、売上高は37,088百万円(前期比3.4%減)となりました。

【製造部門】

製造部門は、収益性を意識し、MD力、商品企画、開発力の強化並びに品質向上に努めました。野球・ソフトボール用品においては、商品開発の一環として、スパイクとキャッチャー用具をテーマにそれぞれ「ゼットプロスタッフミーティング」を開催いたしました。ストップ性能にこだわった硬式捕手用プロテクター「プロステイタス」や一般軟式FRP製バット「ブラックキャノンZ II」「バトルツイン」をはじめ、グラブ・スパイク等のグッズも引き続き堅調に推移いたしました。一方、「コンバース」のバスケットボール用品については総じて低調に推移いたしました。また、当期からアウトドアブランド「C a n a d i a n E a s t」の企画・販売をゼットクリエイティブ株式会社から当社へと移行したことにより、売上高が減少いたしました。

この結果、売上高は342百万円(前期比18.4%減)となりました。

【小売部門】

小売部門は、店頭において品揃えの充実や専門的な接客が評価され来店者数が増加したことにより、アウトドアウェアや登山靴が好調に推移するとともに、登山用品ECサイト「PREMIUM SHOP」が堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は447百万円(前期比10.3%増)となりました。

【その他部門】

物流部門は、前期からの外部受託業務における取扱いの減少により、低調に推移いたしました。

スポーツ施設運営部門は、子供向け等プログラムの充実やパーソナルトレーニングを本格化させたものの、近隣の競合店との競争激化もあり、前期比ほぼ横ばいで推移いたしました。

この結果、売上高は956百万円(前期比14.2%減)となりました。

<ご参考>当社(個別)における事業・用品別の概況は次のとおりであります。

事業・用品別	金額	構成比	伸率
	百万円	%	%
アスレチックス	28,339	76.5	△1.5
野球・ソフトボール	7,856	21.2	7.1
サッカー・フットサル	4,753	12.9	△8.3
テニス・バドミントン	4,305	11.6	△11.3
競技ウェア	2,790	7.5	△2.8
学校体育・競技器具	2,296	6.2	△4.4
卓球	1,582	4.3	13.2
バスケットボール	1,492	4.0	△0.9
その他	3,261	8.8	1.0
ライフスタイル	6,504	17.6	△10.2
ボディケア	2,185	5.9	△5.5
計	37,029	100.0	△3.4

- ② 設備投資の状況
特記すべき事項はありません。
- ③ 資金調達の状況
特記すべき事項はありません。
- ④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況
該当事項はありません。
- ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況
該当事項はありません。
- ⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況
該当事項はありません。
- ⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況
該当事項はありません。

(2) 財産及び損益の状況

(訂正後)

区 分	第 66 期 (平成27年 3 月期)	第 67 期 (平成28年 3 月期)	第 68 期 (平成29年 3 月期)	第 69 期 (当連結会計年度) (平成30年 3 月期)
売 上 高(百万円)	37,881	38,643	40,335	38,833
経常利益又は経常損失 (△)(百万円)	△468	△200	364	588
親会社株主に帰属する 当期純利益又は当期 純損失(△)(百万円)	6	△226	282	530
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	0円33銭	△11円56銭	14円44銭	27円11銭
総 資 産(百万円)	19,777	20,641	20,862	21,113
純 資 産(百万円)	8,168	7,919	8,086	8,828
1株当たり純資産額	417円21銭	404円56銭	413円09銭	451円03銭

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。
2. 平成27年3月期の過年度決算に関し、消費税申告計算における誤謬が判明したため、第66期から第68期の財産及び損益の状況については、当該誤謬の訂正後の数値を記載しております。なお、誤謬の訂正前の数値は次のとおりであります。

(訂正前)

区 分	第 66 期 (平成27年 3 月期)	第 67 期 (平成28年 3 月期)	第 68 期 (平成29年 3 月期)
売 上 高(百万円)	37,881	38,643	40,335
経常利益又は経常損失 (△)(百万円)	△308	△200	364
親会社株主に帰属する 当期純利益又は当期 純損失(△)(百万円)	166	△226	282
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	8円49銭	△11円56銭	14円44銭
総 資 産(百万円)	19,777	20,641	20,862
純 資 産(百万円)	8,328	8,079	8,246
1株当たり純資産額	425円37銭	412円72銭	421円25銭

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社との関係

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会 社 名	資本金	当社の出資比率	主要な事業内容
	百万円	%	
ゼットクリエイト株式会社	960	100	スポーツ用品製造・輸出入・販売
ザイロ株式会社	10	100	物 流 事 業
株式会社 ロ ッ ジ	13	100	ス ポ ー ツ 用 品 販 売
株式会社 ゼ オ ス	20	100	ス ポ ー ツ 施 設 運 営
株式会社 ゼ ノ ア	80	100	健康用品の企画・製造・販売
株式会社 ジャ ス プ ロ	60	80	物 流 事 業
広州捷多商貿有限公司	35	—	スポーツ用品製造・輸出入・販売

(注)当事業年度末日において特定完全子会社はありません。

(4) 対処すべき課題

当社グループでは、「企業の永続と繁栄」「個人の幸福と人格の向上」「業を通じて社会に奉仕する」を社是とし、スポチュニティ<SPORTUNITY>(スポーツを通じて、地域社会に喜びと健康やふれあいの機会を提供し、調和をもたらすこと。)の実現を企業理念としております。

今後において、当社グループが企業価値を向上させるためには、安定した収益基盤の確立と財務基盤の強化を継続して行うとともに、収益力の高い企業体質を構築し、持続的な成長を確保していくことが必要であると認識しております。

そのため、自社品、新規商品、新規流通取扱い強化等による一層の売上総利益の改善と引き続きコスト削減に努めることで収益力の高い企業体質を確立し、消費者・顧客が満足する商品やサービスの提供機能を進化させるとともに、平成30年4月1日に実施されたシウラスポーツ用品株式会社からの事業譲受による新規販路を拡大させ、社会に新しい価値を創造し続けるスポーツ&ライフスタイル企業として、安定かつ継続的に利益を計上できる会社にしてまいります。

また、当社においては、本年4月に実施された税務調査の結果、平成27年3月期における消費税の申告計算における誤謬が判明いたしました。これに伴い、当社は過年度の決算を修正し、有価証券報告書及び四半期報告書の訂正報告書を提出いたしました。これらの誤謬につきましては、当社における税務申告業務のチェック体制が機能しなかったことが原因であり、改めて財務報告に係る内部統制の重要性を強く認識するとともに、税務専門知識の充実や内部牽制機能の強化等再発防止に努め、適正な内部統制の整備・運用を図ってまいります。

株主の皆様には、これからも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 主要な事業内容(平成30年3月31日現在)

当社グループは、当社及び子会社を合わせ8社で構成され、スポーツ事業(野球・ソフトボール用品、サッカー用品、テニス・バドミントン用品等の卸売、野球用品、健康用品等の企画・製造・販売、スポーツ用品小売、その他スポーツ付随事業)を行っております。

(6) 主要な事業所(平成30年3月31日現在)

当社	本社：大阪府大阪市 東京支店(東京都台東区) 北海道営業課(北海道札幌市) 東北支店(宮城県仙台市) 北関東支店(埼玉県桶川市) 北陸支店(石川県金沢市) 名古屋支店(愛知県名古屋市) 大阪支店(大阪府大阪市) 中・四国支店 中国営業課(広島県広島市) 四国営業課(香川県高松市) 九州支店(福岡県福岡市)
ゼットクリエイト株式会社	本社(大阪府大阪市)
ザイロ株式会社	本社(大阪府東大阪市)
株式会社ロッジ	本店(大阪府大阪市)
株式会社ゼオス	本社(大阪府大阪市)
株式会社ゼノア	本社(東京都台東区)
株式会社ジャスプロ	本社(東京都台東区)
広州捷多商貿有限公司	本社(中国広州市)

(7) 使用人の状況(平成30年3月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

使 用 人 数	前連結会計年度末比増減
521(196)名	14(△7)名

(注)使用人数は就業員数であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

② 当社の使用人の状況

使 用 人 数	前事業年度末比増減	平 均 年 齢	平 均 勤 続 年 数
361(20)名	9(0)名	46.8歳	21.5年

(注)使用人数は就業員数であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(8) 主要な借入先(平成30年3月31日現在)

借 入 先	借 入 額
	百万円
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	159
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	154
株 式 会 社 北 國 銀 行	48
株 式 会 社 北 陸 銀 行	47

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

特記すべき重要な事項はありません。

2. 会社の株式に関する事項(平成30年3月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 80,000,000株
- ② 発行済株式の総数 20,102,000株(自己株式526,846株を含む)
- ③ 株主数 2,780名
- ④ 単元株式数 100株
- ⑤ 大株主(上位10名)

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
	千株	%
有 限 会 社 眞 徳	3,863	19.73
ゼ ッ ト 共 栄 会	1,656	8.46
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	970	4.96
渡 辺 泰 男	611	3.12
渡 辺 裕 之	492	2.52
ゼ ッ ト 持 株 会	484	2.47
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	401	2.05
株 式 会 社 モ ル テ ン	397	2.03
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	333	1.71
株 式 会 社 デ サ ン ト	317	1.62

(注)持株比率は自己株式(526,846株)を控除して計算しております。

3. 新株予約権等の状況

新株予約権の発行はいたしておりません。

4. 会社役員に関する事項

① 取締役の状況(平成30年3月31日現在)

会社における地位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	渡 辺 裕 之	
専 務 取 締 役	和 田 耕 一	兼ゼットクリエイト株式会社代表取締役社長
常 務 取 締 役	高 橋 智 一	営業本部長
常 務 取 締 役	中 島 浩 三	MD・物流本部長
取 締 役	渡 辺 征 志	MD・物流本部副本部長兼第一販売部長
取 締 役	林 賢 志	管理本部長
取締役(監査等委員)	板 橋 裕	
取締役(監査等委員)	衣 目 修 三	衣目公認会計士事務所所長 ゼットクリエイト株式会社監査役
取締役(監査等委員)	碩 省 三	弁護士法人御堂筋法律事務所パートナー弁護士 株式会社椿本チエイン社外監査役 中外炉工業株式会社社外監査役 ゼットクリエイト株式会社監査役

- (注) 1. 取締役(監査等委員)衣目修三氏及び取締役(監査等委員)碩省三氏は、社外取締役であります。
2. 当社は、取締役(監査等委員)衣目修三氏及び取締役(監査等委員)碩省三氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
3. 取締役(監査等委員)衣目修三氏は、以下のとおり財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
- ・衣目修三氏は、公認会計士の資格を有しております。
4. 情報収集その他監査の実効性を高め、監査・監督機能を強化するために、常勤の監査等委員を置いております。
5. 平成30年4月1日付にて、取締役の地位・担当及び重要な兼職の状況が次のように変更されました。

会社における地位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
取 締 役 副社長執行役員	和 田 耕 一	兼ゼットクリエイト株式会社代表取締役社長
取 締 役 常務執行役員	高 橋 智 一	営業本部長
取 締 役 常務執行役員	中 島 浩 三	MD・物流本部長
取 締 役 常務執行役員	林 賢 志	管理本部長
取 締 役 執行役員	渡 辺 征 志	MD・物流本部副本部長兼MD事業部長

② 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額であります。

③ 取締役の報酬等の総額

区 分	支 給 人 員	支 給 額
取締役(監査等委員である者を除く。) (うち社外取締役)	6名 (0名)	101,476千円 (0千円)
取締役(監査等委員) (うち社外取締役)	3名 (2名)	17,856千円 (7,956千円)
合 計 (うち社外取締役)	9名 (2名)	119,332千円 (7,956千円)

- (注) 1. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 取締役の報酬限度額は、平成27年6月26日開催の第66回定時株主総会において、取締役(監査等委員である者を除く。)について月額15,000千円以内(但し、使用人分給与は含まない。)、取締役(監査等委員)について月額3,000千円以内と決議いただいております。
3. 当事業年度において、社外取締役が当社子会社から受けた報酬総額は2,988千円であります。

④ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・ 取締役(監査等委員)衣目修三氏は、衣目公認会計士事務所の所長であります。当社と衣目公認会計士事務所との間に取引関係はありません。
- ・ 取締役(監査等委員)碩省三氏は、弁護士法人御堂筋法律事務所のパートナー弁護士であります。当社と弁護士法人御堂筋法律事務所との間に顧問契約関係があります。

- ロ. 他の法人等の社外役員等としての重要な兼任の状況及び当社と当該他の法人等との関係

氏 名	兼 任 先 会 社 名	役 職 名
取 締 役 碩 省 三 (監査等委員)	株式会社椿本チェーン 中外炉工業株式会社	社外監査役 社外監査役

(注)株式会社椿本チェーン及び中外炉工業株式会社と当社との間には、特別の関係はありません。

- ハ. 当事業年度における主な活動状況

a. 取締役会及び監査等委員会への出席状況

氏 名	取 締 役 会 (1 3 回 開 催)	監 査 等 委 員 会 (5 回 開 催)
	出 席 回 数	出 席 回 数
取 締 役 衣 目 修 三 (監査等委員)	13回	5回
取 締 役 碩 省 三 (監査等委員)	13回	5回

b. 取締役会及び監査等委員会における発言状況

- ・取締役(監査等委員)衣目修三氏は、当事業年度開催の取締役会及び監査等委員会に上記のとおり出席し、主に公認会計士としての専門的見地から適宜意見を述べております。
- ・取締役(監査等委員)碩省三氏は、当事業年度開催の取締役会及び監査等委員会に上記のとおり出席し、主に弁護士としての専門的見地から適宜意見を述べております。

5. 会計監査人の状況

- ① 名称 有限責任 あずさ監査法人
② 報酬等の額

	支 払 額
イ. 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額	32,000千円
ロ. 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭 その他の財産上の利益の合計額	34,100千円

- (注) 1. 当社の子会社であるゼットクリエイト株式会社につきましても、有限責任 あずさ監査法人が会計監査人となっております。
2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
3. 監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

③ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

④ 会計監査人の解任又は不再任の決定方針

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任します。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

⑤ 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人有限責任 あずさ監査法人は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は法令の定める最低責任限度額であります。

6. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

(1) 業務の適正を確保するための体制についての決議の内容の概要

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての取締役会決議の内容の概要は以下のとおりであります。(最終改定 平成27年6月26日)

① 当社及び当社子会社の取締役等及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社グループは、コンプライアンスの基本原則を「倫理規範」に定め、同規範をより具体化した「行動規範」を別に定め、取締役及び使用人がコンプライアンスを自らの問題としてとらえ、職務執行に当たるように指導する。コンプライアンスの責任部署として企業倫理室を設置し、社外弁護士もアドバイザーとして出席する「企業倫理委員会」を定期的で開催し、当社グループのコンプライアンス体制の整備と問題点の把握に努める。また、内部通報手段として社内外窓口を設け、社内は人事総務部長、社外は社外弁護士を対応窓口とし、通報内容は秘守し、通報者に対し不利益な扱いを行わないことを明確にする。

② 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る以下の文書その他の重要な情報は、社内規程に基づき適切に保存及び管理を行う。

- ・株主総会議事録
- ・取締役会議事録

以上の2文書は少なくとも10年間は保存するものとし、閲覧可能な状態を維持する。

③ 当社及び当社子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理の責任部署としてリスク管理室を設置し、「リスク管理委員会」を定期的で開催し、主要部門と子会社別にリスク管理責任者を決定し、それぞれのリスクを洗い出し、その予防策、発生時の対応、経営への影響を定め、当社グループの横断的なリスク管理体制の整備と問題点の把握に努める。

- ④ 当社及び当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
当社の取締役会は定例で毎月1回開催し、経営に係る重要事項の決定と取締役の職務遂行の監督等を行う。また、取締役は営業本部会議やグループ経営会議等の重要な会議にも任命された場合には出席し、経営上の課題や計画の進捗状況等を把握し、経営判断に反映する。また、子会社の取締役会においても、経営に係る重要事項の決定や各取締役よりその執行状況を報告させ、効率的な業務遂行体制の検証を行う。
- ⑤ 当社及び当社子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
当社の取締役会は、当社グループの企業価値向上を目指した経営を推進することを目的として、法令、定款及び取締役会規則に定める事項を決議し、当社グループの業務の執行状況を監督する。グループ会社の重要事項については取締役会の事前承認とする。当社グループに属する会社間の取引は、法令・会計原則その他の社会規範に照らし適切に行う。
当社の監査等委員会及び内部監査部門は、当社及び当社グループの内部監査を実施し、当社取締役会等にその結果を報告し、取締役会はその問題点の把握と改善に努める。
- ⑥ 当社子会社の取締役の職務の遂行に係る当社への報告に関する体制
当社は、定期的に当社及び当社子会社の取締役(監査等委員である者を含む。)・監査役が出席する取締役会を開催し、経営上の重要情報の共有に努めるとともに、当社子会社において重要な事象が発生した場合には、子会社に対して、随時当社取締役会、当社取締役への報告を義務づける。
- ⑦ 当社監査等委員会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
監査等委員会の職務の補助は、内部監査室の使用人がこれに当たる。また、監査等委員会が専属の補助使用人を置くことを求めた場合、取締役会は監査等委員会と協議のうえ、使用人の中から指名することができる。

- ⑧ 前号で定める使用人の取締役(監査等委員である者を除く。)からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
前号で定める使用人の取締役(監査等委員である者を除く。)からの独立性を確保するため、当該使用人の任命、異動、人事評価、懲戒等人事に関する事項の決定については、常勤の監査等委員である取締役の同意を得るものとする。また、当該使用人は、監査等委員会の職務の補助について監査等委員会の指示に従うものとし、取締役(監査等委員である者を除く。)その他業務執行部門に属する者からの指揮命令は受けないものとする。
- ⑨ 当社の取締役(監査等委員である者を除く。)及び使用人並びに当社子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社の監査等委員会に報告するための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制
当社の取締役(監査等委員である者を除く。)及び使用人並びに当社子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者は、下記の定める事項について、発見次第速やかに当社の監査等委員会に対し報告を行わねばならない。なお、当社の監査等委員会は必要に応じて、当社の取締役(監査等委員である者を除く。)並びに当社子会社の取締役及び使用人に対し報告を求めることができる。
- ・法令、定款に違反する事項、又はそのおそれのある事項
 - ・会社の信用を大きく低下させる事項、又はそのおそれのある事項
 - ・会社の業績に大きく悪影響を与える事項、又はそのおそれのある事項
 - ・倫理規範と行動規範を大きく逸脱する事項、又はそのおそれのある事項
- ⑩ 上記の報告をした者が当該報告をしたことを理由に不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
倫理規範及び行動規範に基づき、当社監査等委員会への報告を理由に当該報告者に対して、当該報告したことを理由とする不利益な取扱いは一切行わないこととする。

- ⑪ 当社監査等委員会の職務の遂行について生じる費用等の処理に関する体制

監査等委員会がその職務の遂行について生じる費用の前払い又は支出した費用等の償還を請求したときは、当該監査等委員である取締役の職務の遂行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理するものとする。

- ⑫ その他当社監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査等委員会は重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、取締役会の他必要に応じて他の重要な会議に出席でき、主要な稟議書その他業務執行に関する情報を閲覧し、取締役に対して説明を求めることができる。また、監査等委員会は当社の会計監査人である、有限責任 あずさ監査法人から会計監査内容について説明を受けるとともに、情報の交換を行う等連携を図っていく。

- ⑬ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社及び当社子会社は、行動規範に基づき、反社会的な勢力からの不当な要求には決して応じない。

反社会的勢力から不当な要求を受けた場合の対応は、人事総務部を統括部署とし、所轄警察署や顧問弁護士等の外部専門機関と連携し、組織的に対応する。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社では、業務の適正を確保するための体制についての決議に基づき、以下のとおりその適切な運用に努めております。

① コンプライアンスに対する取り組み

コンプライアンスの基本原則である「倫理規範」及び同規範をより具体化した「行動規範」について、当社使用人全員に対し冊子として配布を行うことにより、法令及び定款を遵守するための意識向上に努めております。また、企業倫理室が主管する「企業倫理委員会」を適宜開催し、法改正や法令遵守に関する重要事項及びその対応を中心として、主管部署より報告を受けております。

② リスクマネジメントに対する取り組み

リスク管理室が主管する「リスク管理委員会」を適宜開催し、潜在的なリスクを明確化するとともに、対策及び予防策の検討を行っております。また、情報セキュリティ強化のためネットワークの社内網整備を推進し、情報漏洩リスクの低減に努めております。

③ 当社グループにおける業務の適正の確保に対する取り組み

当社子会社における業務執行を監督するため、グループ会社の重要事項については取締役会での事前承認を徹底しております。また、監査等委員会及び内部監査部門は、定期的に当社及び当社グループの内部監査を実施するとともに、取締役会への結果報告や会計監査人との情報交換を行うことで、業務の適正化に努めております。

7. 会社の支配に関する基本方針

(1) 会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容の概要

当社は、当社の企業価値を向上し、株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくためには、収益力の高い企業体質を構築し、持続的な成長を確保していくことが必要であると認識しております。そして、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者としても、当社は、当社の企業価値の源泉を理解し、収益力の高い企業体質の構築及び持続的な成長の確保を通して、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者でなければならないと考えております。

もとより、当社株式について大量取得行為がなされる場合であっても、それが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、当社としても当該大量取得行為を一概に否定するものではなく、株式会社の支配権の移転を伴う株式の大量取得提案を受け入れるかどうかの判断は、最終的には株主の皆様の全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、株主が株式会社の支配権の移転を伴う株式の大量取得提案を受け入れるかどうかを判断するためには、当該大量取得行為の内容、目的、大量取得者の将来にわたる経営戦略等の必要な情報及び判断のための十分な時間の提供が前提となりますが、昨今の株式大量取得の中には、そのような情報及び検討時間の提供が十分になされないまま、突如として大量取得行為が行われたり、大量取得者の一方的な考えに基づき買付行為が進められる事例が少なからず見受けられます。当社としましては、そのような大量取得行為者は、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれを生じさせる者であって、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えております。

(2) 基本方針に照らして不適切な者によって会社の財産及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みの内容の概要

当社は、平成29年6月28日開催の第68回定時株主総会において、当社の企業価値、株主共同の利益を確保し、向上させることを目的とし、当社株式の大量取得行為に関する対応方針(以下「本ルール」といいます。)継続の承認決議を得ております。本ルールは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株式等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株式等の買付行為(いずれも事前に当社取締役会が同意したものを除き、また市場取引、公開買付等の具体的な買付方法の如何を問いません。以下、かかる買付行為を「大量取得行為」といい、かかる買付行為を行う又は行おうとする者を「大量取得者」といいます。)に対する対応方針であります。

本ルール採用の目的については、当社は企業価値を向上させ、株主共同の利益を確保、向上させるための施策に邁進する所存ですが、近時、昨今のわが国の資本市場においては、株主、投資家等に買付目的や買付後の経営戦略等についての十分な情報開示が行われることもないまま、突如として大量取得行為が行われたり、大量取得者の一方的な考えに基づき買付行為を進める事例が少なからず見受けられます。

もとより、当社としましては大量取得行為が当社の企業価値の向上、株主共同の利益に資するものであれば、当該行為を否定するものではありません。しかし、このような濫用的な大量取得行為においては、株主の皆様が大量取得者の提示する買付価格の妥当性等をはじめとして、大量取得行為の内容について検討するに足る情報や時間が与えられないまま判断を迫られるケースも想定され、その結果、対象企業の企業価値や株主共同の利益を損なう可能性も否定できません。大量取得提案を受け入れるかどうかの判断は、いうまでもなく、当社株主の皆様によってなされるべきものであり、そのためには、かかる大量取得行為が行われる際に、大量取得者から当該大量取得行為の内容、目的、将来にわたる経営戦略等、株主の皆様が大量取得行為を受け入れるか否かを判断するのに必要な情報及び判断のための十分な時間が提供される必要があります。こうした観点から、当社は、企業価値及び株主共同の利益の確保と向上のために、大量取得行為及びその提案がなされた場合におけるルールを策定いたしました。

本ルールの概要は、1. 大量取得者は、大量取得行為に先立ち、株主の皆様が当該大量取得行為を受け入れるか否かを検討するために必要かつ十分な情報として、当社取締役会が本ルールに従って求める情報を提供しなければならない、2. 提供された情報に基づき、当社取締役会、特別委員会が当該大量取得行為について評価検討を行うための期間を設け、かかる期間が経過するまでは大量取得行為を開始することができない、3. 大量取得者が本ルールに従わない場合等、当社取締役会は、当社株主の皆様の利益を守るため、特別委員会の助言・勧告を最大限尊重して、対抗措置を執る場合がある、というものです。

大量取得者が本ルールを遵守しない場合の具体的な対抗措置の内容としましては、新株予約権の株主無償割当てを予定しておりますが、その時点で当社取締役会が最適と判断する別の方法を執ることがあります。なお、当社取締役会が対抗措置発動の決定を行った場合、当該決議の内容その他当社取締役会が適切と判断する事項について、速やかに情報開示を行います。

本ルールの有効期限につきましては、平成29年6月28日開催の第68回定時株主総会終結のときから2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会終結のときまでであり、当社は有効期限の満了時に、再度株主総会において株主の皆様の本ルールの継続の可否について決議いただく予定であります。

なお、本ルールは、有効期間の満了前であっても、当社株主総会又は当社取締役会において、本ルールにつき廃止の決議がなされた場合、その時点で廃止されるものであります。

また、関係諸法令の新設、改正及び金融商品取引所その他関係省庁等の対応の変化等により、株主の皆様のご共同利益及び当社企業価値の維持・向上の観点から、当社取締役会において、必要に応じて本ルールを修正し、変更する場合があります。当社は、本ルールの廃止、修正又は変更がなされた場合、かかる事実及び変更等の内容その他必要な事項について、速やかに情報開示を行います。

(3) 取り組みに関する当社取締役会の判断及びその理由

当社取締役会は、上記(2)の具体的な取り組みについて、以下のように判断しております。

- イ. 上記基本方針を実現するための当社の具体的取り組みは、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるためのものであり、まさに基本方針に沿うものであります。
- ロ. 基本方針に照らして不適切な者による支配を防止するための取り組みとして当社がその導入を決議した本ルールは、株主の皆様が大量取得行為を受け入れるか否かを判断するために必要な情報及び判断のための十分な時間を確保することにより、当社の企業価値、ひいては株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものであり、これは上記基本方針に沿うものであります。

更に、本ルールは、①株主総会においてその導入、継続の可否を株主の皆様にご諮るものであること、②合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ対抗措置が発動できないように設定されていること、③独立性の高い社外取締役によって構成され、当社の費用で独立した第三者の専門家の助言を得ることができる等の権限が認められた特別委員会が設置されているうへ、本ルールの発動に際しては必ず特別委員会の判断を経ることが必要とされていること、④有効期間が、継続決議のなされた定時株主総会終結のときから2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会のときまでと定められているうへ、有効期間の満了までに再度株主総会において株主の皆様によりその継続の可否についてご決議いただくこととしていること、⑤株主の皆様により選任された取締役で構成される取締役会により有効期間の満了前においてもいつでも廃止できるとされていること等により、その公正性、客観性が確保されており、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(注) 本事業報告に記載の金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	16,321,650	流動負債	10,105,274
現金及び預金	3,748,100	支払手形及び買掛金	6,621,388
受取手形及び売掛金	8,271,856	電子記録債務	2,187,782
電子記録債権	698,436	短期借入金	200,332
商品及び製品	3,321,196	未払法人税等	27,033
仕掛品	43,306	未払消費税等	188,302
原材料及び貯蔵品	136,923	賞与引当金	207,500
その他	160,459	返品調整引当金	49,409
貸倒引当金	△58,630	その他	623,526
固定資産	4,791,484	固定負債	2,178,929
有形固定資産	2,108,447	長期借入金	209,451
建物及び構築物	764,127	繰延税金負債	479,879
土地	1,228,069	退職給付に係る負債	359,127
その他	116,250	長期未払金	267,110
無形固定資産	78,981	その他	863,361
その他	78,981	負債合計	12,284,203
投資その他の資産	2,604,055	(純資産の部)	
投資有価証券	1,982,114	株主資本	7,739,510
長期貸付金	24,674	資本金	1,005,100
敷金	245,918	資本剰余金	2,968,778
その他	420,547	利益剰余金	3,839,888
貸倒引当金	△69,199	自己株式	△74,256
資産合計	21,113,135	その他の包括利益累計額	1,089,421
		その他有価証券評価差額金	1,101,391
		繰延ヘッジ損益	△14,715
		為替換算調整勘定	20,640
		退職給付に係る調整累計額	△17,894
		純資産合計	8,828,931
		負債・純資産合計	21,113,135

連 結 損 益 計 算 書

(平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		38,833,814
売 上 原 価		31,249,991
売 上 総 利 益		7,583,823
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		7,076,774
営 業 利 益		507,048
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	33,549	
そ の 他	95,438	128,987
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	1,844	
売 上 割 引	37,598	
そ の 他	8,064	47,507
経 常 利 益		588,529
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		588,529
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	57,903	57,903
当 期 純 利 益		530,625
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		530,625

連結株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当 期 首 残 高	1,005,100	2,968,778	3,527,749	△74,255	7,427,372
誤 謬 の 訂 正 に よ る 累 積 的 影 響 額			△159,760		△159,760
誤謬訂正後当期首残高	1,005,100	2,968,778	3,367,988	△74,255	7,267,611
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当			△58,725		△58,725
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			530,625		530,625
自 己 株 式 の 取 得				△1	△1
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	－	－	471,900	△1	471,898
当 期 末 残 高	1,005,100	2,968,778	3,839,888	△74,256	7,739,510

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額					純 資 産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	為 替 換 算 調 整	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	その他の包括利 益累計額合計	
当 期 首 残 高	801,878	19,949	17,645	△20,741	818,732	8,246,104
誤 謬 の 訂 正 に よ る 累 積 的 影 響 額						△159,760
誤謬訂正後当期首残高	801,878	19,949	17,645	△20,741	818,732	8,086,343
連結会計年度中の変動額						
剰 余 金 の 配 当						△58,725
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益						530,625
自 己 株 式 の 取 得						△1
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	299,512	△34,665	2,995	2,846	270,689	270,689
連結会計年度中の変動額合計	299,512	△34,665	2,995	2,846	270,689	742,587
当 期 末 残 高	1,101,391	△14,715	20,640	△17,894	1,089,421	8,828,931

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び連結子会社の名称

連結子会社の数

7社

連結子会社の名称

ゼットクリエイイト株式会社

ザイロ株式会社

株式会社ロッジ

株式会社ゼオス

株式会社ゼノア

株式会社ジャスプロ

広州捷多商貿有限公司

平成29年12月に株式会社すぼ一つらんどコジマは清算したため、連結の範囲から除外しています。

(2) 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

(3) 会計方針に関する事項

①重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、
売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ. デリバティブ

時価法

ハ. たな卸資産

評価基準は、当社及び連結子会社においては
原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基
づく簿価切下げの方法)によっております。

商品及び製品

主として先入先出法

仕掛品

総平均法

原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法

②重要な固定資産の減価償却の方法

- イ. 有形固定資産
(リース資産を除く) 定率法
但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(付属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物付属設備及び構築物については、定額法によっております。
- ロ. 無形固定資産
(リース資産を除く) 定額法
なお、自社利用のソフトウェアの減価償却の方法については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
- ハ. リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③重要な引当金の計上基準

- イ. 貸倒引当金
債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ. 賞与引当金
従業員に支給する賞与に充てるため、将来の支給見込額のうち、当連結会計年度の負担額を計上しております。
- ハ. 返品調整引当金
将来予想される売上返品による損失に備えるため、過去の返品率等を勘案した将来の返品見込額に対する損失予想額を計上しております。

④退職給付に係る会計処理の方法

- イ. 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

⑤重要なヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約取引

ヘッジ対象

輸出入取引により生じる外貨建債権債務及び外貨建予定取引

ハ. ヘッジ方針

当社グループでは、外貨建の売上、仕入取引に係る為替変動リスクをヘッジする目的で為替予約を行っております。

ニ. ヘッジの有効性評価の方法

原則としてヘッジ手段とヘッジ対象の重要な条件が同一であり、高い相関関係があると考えられるため、ヘッジの有効性の評価は省略しております。

⑥その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理 税抜方式によっております。

(4) 誤謬の訂正に関する注記

当連結会計年度において、国税局の税務調査の指摘に基づき調査した結果、課税売上割合算定上、非課税取引の加算漏れにより消費税が過少申告されていることが発覚したため、誤謬の訂正を行いました。

当該誤謬の訂正による累積的影響額は、当連結会計年度の期首の純資産の帳簿価額に反映しております。

この結果、連結株主資本等変動計算書の当期首残高は利益剰余金159,760千円減額しております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において「流動資産」の「受取手形及び売掛金」に含めていた「電子記録債権」及び「流動負債」の「支払手形及び買掛金」に含めていた「電子記録債務」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。

なお、前連結会計年度の「電子記録債権」は413,477千円、「電子記録債務」は1,868,511千円であります。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 2,879,002千円

(3) 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産	建物及び構築物	58,724千円
------------	---------	----------

	土地	362,395千円
--	----	-----------

	投資有価証券	858,918千円
--	--------	-----------

	計	1,280,038千円
--	---	-------------

担保に係る債務	長期借入金	362,559千円
---------	-------	-----------

(1年内返済予定の長期借入金を含む)

(4) 期末日満期手形等

期末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。金融機関が休日の場合、期末日残高から除かれている期末日満期手形等は、次のとおりであります。

受取手形	79,753千円
------	----------

電子記録債権	20,778千円
--------	----------

支払手形	1,834千円
------	---------

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式

20, 102, 000株

(2) 配当に関する事項

①配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	58,725	3.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日

②当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発日が発行日翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月27日 定時株主総会	普通株式	78,300	4.00	平成30年3月31日	平成30年6月28日

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入、社債発行による方針です。デリバティブは、外貨建の売上・仕入に係る為替変動リスク及び借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については、四半期毎に時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金及び設備投資資金であります。なお、デリバティブ取引の利用にあたっては、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日(当期の連結決算日)における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 現金及び預金	3,748,100	3,748,100	-
(2) 受取手形及び売掛金	8,271,856	8,271,856	-
(3) 電子記録債権	698,436	698,436	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	1,980,764	1,980,764	-
(5) 支払手形及び買掛金	(6,621,388)	(6,621,388)	-
(6) 電子記録債務	(2,187,782)	(2,187,782)	-
(7) 短期借入金	(200,332)	(200,332)	-
(8) 長期借入金	(209,451)	(209,452)	△1
(9) デリバティブ取引	(14,715)	(14,715)	-

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

- (注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、並びに、(3) 電子記録債権
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (4) 投資有価証券
これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。
- (5) 支払手形及び買掛金、(6) 電子記録債務、並びに、(7) 短期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (8) 長期借入金
長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。
- (9) デリバティブ取引
為替予約の時価については、取引先金融機関から提示された価格等に基づいて算定しております。
2. 非上場株式(連結貸借対照表計上額1,350千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券 その他有価証券」に含めておりません。

6. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 451円03銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 27円11銭 |

7. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	16,084,896	流動負債	10,098,130
現金及び預金	3,405,798	支払手形	373,980
受取手形	508,110	電子記録債権	1,920,113
電子記録債権	698,436	買掛金	6,585,246
売掛金	7,578,450	短期借入金	200,332
商品	3,288,228	リース債務	30,579
立替金	566,298	未払金	409,297
その他	97,926	未払消費税等	160,050
貸倒引当金	△58,352	未払費用	129,946
固定資産	5,369,493	預り金	50,943
有形固定資産	2,046,328	賞与引当金	155,000
建物	731,583	返品調整引当金	49,409
構築物	17,323	その他	33,231
機械及び装置	776	固定負債	2,066,607
工具、器具及び備品	13,680	長期借入金	209,451
土地	1,228,069	リース債務	25,195
リース資産	54,894	繰延税金負債	479,610
無形固定資産	67,254	退職給付引当金	267,790
借地権	18,338	役員長期未払金	267,110
電話加入権	10,120	預り保証金	817,450
その他	38,795	負債合計	12,164,737
投資その他の資産	3,255,910	(純資産の部)	
投資有価証券	1,980,858	株主資本	8,188,872
関係会社株式	970,000	資本金	1,005,100
長期貸付金	390,664	資本剰余金	2,968,778
差入保証金	237,317	資本準備金	251,275
敷金	245,918	その他資本剰余金	2,717,503
破産更生債権等	56,991	利益剰余金	4,289,251
その他	125,104	その他利益剰余金	4,289,251
貸倒引当金	△750,945	別途積立金	3,527,542
資産合計	21,454,390	繰越利益剰余金	761,708
		自己株式	△74,256
		評価・換算差額等	1,100,780
		その他有価証券評価差額金	1,100,780
		純資産合計	9,289,652
		負債・純資産合計	21,454,390

損 益 計 算 書

(平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		37,029,227
売 上 原 価		30,979,001
売 上 総 利 益		6,050,226
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		5,882,984
営 業 利 益		167,241
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	32,927	
そ の 他	215,668	248,595
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	1,837	
売 上 割 引	37,598	
そ の 他	5,585	45,021
経 常 利 益		370,815
税 引 前 当 期 純 利 益		370,815
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	17,221	17,221
当 期 純 利 益		353,594

株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本								自己株式	株 主 資 本 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金			利 益 剰 余 金 合 計		
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 合 計	そ の 他 利 益 剰 余 金					
					別 積 立 金	途 越 利 益 剰 余 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
当 期 首 残 高	1,005,100	251,275	2,717,503	2,968,778	3,527,542	626,600	4,154,143	△74,255	8,053,766	
誤謬の訂正による 累積的影響額						△159,760	△159,760		△159,760	
誤謬訂正後当期首残高	1,005,100	251,275	2,717,503	2,968,778	3,527,542	466,840	3,994,382	△74,255	7,894,005	
事業年度中の変動額										
剰余金の配当						△58,725	△58,725		△58,725	
当期純利益						353,594	353,594		353,594	
自己株式の取得								△1	△1	
株主資本以外の 項目の事業年度中 の変動額(純額)										
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	294,868	294,868	△1	294,866	
当 期 末 残 高	1,005,100	251,275	2,717,503	2,968,778	3,527,542	761,708	4,289,251	△74,256	8,188,872	

	評価・換算差額等			純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額	評 価 差 額	換 算 差 額 等 合 計	
当 期 首 残 高	801,568		801,568	8,855,334
誤謬の訂正による 累積的影響額				△159,760
誤謬訂正後当期首残高	801,568		801,568	8,695,574
事業年度中の変動額				
剰余金の配当				△58,725
当期純利益				353,594
自己株式の取得				△1
株主資本以外の 項目の事業年度中 の変動額(純額)	299,211		299,211	299,211
事業年度中の変動額合計	299,211		299,211	594,078
当 期 末 残 高	1,100,780		1,100,780	9,289,652

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

①子会社株式 移動平均法による原価法

②有価証券

 その他有価証券

 時価のあるもの

事業年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

 時価のないもの

移動平均法による原価法

③たな卸資産

 商品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産 定率法

 (リース資産を除く)

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(付属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物付属設備及び構築物については、定額法によっております。

②無形固定資産 定額法

 (リース資産を除く)

なお、自社利用のソフトウェアの減価償却の方法については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

- ②賞与引当金 従業員に支給する賞与に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。
- ③返品調整引当金 将来予想される売上返品による損失に備えるため、過去の返品率等を勘案した将来の返品見込額に対する損失予想額を計上しております。
- ④退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

イ. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- ①退職給付に係る会計処理 退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
- ②消費税等の会計処理 税抜方式によっております。

(5) 誤謬の訂正に関する注記

当事業年度において、国税局の税務調査の指摘に基づき調査した結果、課税売上割合算定上、非課税取引の加算漏れにより消費税が過少申告されていることが発覚したため、誤謬の訂正を行いました。

当該誤謬の訂正による累積的影響額は、当事業年度の期首の純資産の帳簿価額に反映しております。

この結果、株主資本等変動計算書の当期首残高は利益剰余金159,760千円減額しております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(貸借対照表)

前事業年度において「流動資産」の「受取手形及び売掛金」に含めていた「電子記録債権」及び「流動負債」の「支払手形及び買掛金」に含めていた「電子記録債務」は金額的重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しております。

なお、前事業年度の「電子記録債権」は413,477千円、「電子記録債務」は1,817,874千円であります。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 2,280,609千円

(3) 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産 建物 58,724千円

土地 362,395千円

投資有価証券 858,918千円

計 1,280,038千円

担保に係る債務 長期借入金 362,559千円

(1年内返済予定の長期借入金を含む)

(4) 保証債務

子会社の仕入債務に対する保証 100,133千円

(5) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権 566,742千円

長期金銭債権 365,990千円

短期金銭債務 1,738,019千円

(6) 取締役に対する金銭債務

役員長期未払金 267,110千円

(7) 期末日満期手形等

期末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。金融機関が休日の場合、期末日残高から除かれている期末日満期手形等は、次のとおりであります。

受取手形 78,334千円

電子記録債権 20,778千円

4. 損益計算書に関する注記

(1) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 関係会社との取引高

営業取引による取引高	売 上 高	7,521千円
	仕 入 高	6,359,079千円
	販売費及び一般管理費	1,328,799千円
営業取引以外による取引高		105,083千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	526,839株	7株	—	526,846株

(注) 自己株式数の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

6. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

貸倒引当金	243,800千円
繰越欠損金	113,613千円
退職給付引当金	81,890千円
役員長期未払金	81,682千円
関係会社株式	74,798千円
賞与引当金	47,399千円
返品調整引当金	15,109千円
ゴルフ会員権	4,749千円
その他	90,331千円

繰延税金資産小計 753,373千円

評価性引当額 △753,373千円

繰延税金資産合計 —千円

(繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金 △479,610千円

繰延税金負債合計 △479,610千円

繰延税金負債の純額 △479,610千円

7. 関連当事者との取引に関する注記

関係会社

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	ゼットクリエイティブ株式会社	所有 直接 100.00	自社ブランド商品の購入 事務所等の賃貸 役員の兼務	自社ブランド商品の仕入(※1) 賃貸料の収入(※3)	6,290,976 41,416	買掛金 —	1,572,196 —
	株式会社ロッジ	所有 直接 100.00	資金の援助 役員の兼務	資金の貸付(※2)	—	長期貸付金	204,000
	株式会社ゼオス	所有 直接 100.00	店舗の賃貸 資金の援助 役員の兼務	賃貸料の収入(※3) 資金の貸付(※2) 利息の受取(※2)	60,792 — 330	— 長期貸付金 —	— 5,400 —
	株式会社ゼノア	所有 直接 100.00	資金の援助 役員の兼務	資金の貸付(※2) 経費の立替(※4)	— —	長期貸付金 立替金	156,590 380,360

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(※1) 市場価格を勘案して仕入価格を決定しております。

(※2) 当社の調達金利又は市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。なお、担保は受け入れておりません。

株式会社ロッジ及び株式会社ゼノアについては、無利息としております。

(※3) 近隣の賃料相場等を勘案して賃貸料を合理的に決定しております。

(※4) 経費支払の一時的な立替をしております。

3. 関係会社への債権に対し、合計681,910千円の貸倒引当金を計上しております。

また、当事業年度において株式会社すば一つらんどコジマの清算に伴う648,681千円の目的使用と合計24,628千円の貸倒引当金戻入を計上しております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額

474円56銭

(2) 1株当たり当期純利益

18円06銭

9. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成30年5月11日

ゼット株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 新 田 東 平 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 城 戸 達 哉 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、ゼット株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ゼット株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

連結注記表の誤謬の訂正に関する注記に記載されているとおり、会社は当連結会計年度において、誤謬の訂正を行い、当期首の利益剰余金を修正している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成30年5月11日

ゼット株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 新 田 東 平 ㊞
業務執行社員
指定有限責任社員 公認会計士 城 戸 達 哉 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、ゼット株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第69期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

個別注記表の誤謬の訂正に関する注記に記載されているとおり、会社は当会計年度において、誤謬の訂正を行い、当期首の利益剰余金を修正している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査等委員会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査等委員会は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第69期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制(内部統制システム)について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ①監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部監査部門と連携のうえ、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ②事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取り組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
- ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(平成17年10月28日企業会計審議会)等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及びその附属明細書並びに連結計算書類(連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表)について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。なお、連結株主資本等変動計算書及び株主資本等変動計算書に記載のある誤謬の訂正について、執行部門が講じた今後の再発防止に対する内部統制の改善状況を引き続き監視、検証いたします。
- ④事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針は相当であると認めます。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号ロの各取り組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員員の地位の維持を目的とするものではないと認めます。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成30年5月14日

ゼット株式会社 監査等委員会

監査等委員(常勤)	板橋	裕	Ⓜ
監査等委員	衣目	修三	Ⓜ
監査等委員	碩	省三	Ⓜ

(注)監査等委員 衣目修三及び碩省三は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金処分の件

剰余金処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

第69期の期末配当につきましては、当事業年度の業績並びに今後の事業展開等を勘案いたしまして、以下のとおりといたしたいと存じます。

- ① 配当財産の種類
金銭といたします。
- ② 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき金4円(うち普通配当2円、特別配当2円)といたしたいと存じます。
なお、この場合の配当総額は78,300,616円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日
平成30年6月28日といたしたいと存じます。

第2号議案 取締役(監査等委員である者を除く。)6名選任の件

取締役(監査等委員である者を除く。以下本議案において同じ。)全員(6名)は、本総会終結のときをもって任期満了となります。

つきましては、取締役6名の選任をお願いするものであります。

なお、監査等委員会より、当社における取締役の選定基準及び業務執行内容等を踏まえ、各候補者は当社の取締役として適任であるとの意見表明を受けております。

取締役の候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
1	わた なべ ひろ ゆき 渡辺裕之 (昭和40年6月25日生)	平成7年7月 当社入社 平成13年4月 当社名古屋店副店長 平成14年4月 当社経営企画室長 平成16年4月 当社総務本部長 平成16年6月 当社取締役総務本部長 平成18年4月 当社取締役社長室長兼総務本部長 平成18年6月 当社常務取締役社長室長兼総務本部長 平成19年4月 当社常務取締役社長室長 兼営業統括副本部長兼総務本部長 平成22年4月 当社代表取締役副社長 営業統括本部長兼経営企画室長 平成23年4月 当社代表取締役社長 営業統括本部長 平成25年4月 当社代表取締役社長 現在に至る	492,470株
	<p>取締役候補者とした理由</p> <p>渡辺裕之氏は、当社営業部門及び管理部門担当取締役としての経験・実績を有しており、平成23年より当社代表取締役社長として豊富な実務経験や企業経営に関する知見を活かし優れたリーダーシップを発揮しておりますことから、引き続き取締役としての選任をお願いするものであります。</p>		

候補者 番号	氏 名 (生 年 月 日)	略 歴、地 位、担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況	所 有 す る 当 社 株 式 の 数
2	<p style="text-align: center;">わ だ こう いち 和 田 耕 一 (昭和25年4月13日生)</p>	<p>平成17年4月 株式会社オリゾンティ代表取締役社長 兼コロネット株式会社代表取締役副社長</p> <p>平成19年4月 伊藤忠商事株式会社 ファッションアパレル部門長(役員)</p> <p>平成20年4月 株式会社ライカ代表取締役社長</p> <p>平成23年7月 ゼットクリエイト株式会社顧問</p> <p>平成23年10月 同社取締役社長代行</p> <p>平成24年4月 当社入社 製品事業本部長 兼ゼットクリエイト株式会社代表取締役社長</p> <p>平成24年6月 当社取締役製品事業本部長 兼ゼットクリエイト株式会社代表取締役社長</p> <p>平成26年4月 当社常務取締役製品事業本部長 兼ゼットクリエイト株式会社代表取締役社長</p> <p>平成29年4月 当社専務取締役 兼ゼットクリエイト株式会社代表取締役社長</p> <p>平成30年4月 当社取締役 副社長執行役員 兼ゼットクリエイト株式会社代表取締役社長 現在に至る</p>	10,400株
<p>取締役候補者とした理由 和田耕一氏は、総合商社ファッション部門における責任者及びアパレル製造業における代表者としての経験・実績を有しており、当社グループにおける製造部門の強化並びに経営全般に関わる質的向上に必要不可欠であることから、引き続き取締役としての選任をお願いするものであります。</p>			
3	<p style="text-align: center;">た か は し と も か ず 高 橋 智 一 (昭和32年7月13日生)</p>	<p>昭和56年4月 当社入社</p> <p>平成13年4月 当社レジャー事業部副部長</p> <p>平成14年4月 当社レジャー事業部副本部長</p> <p>平成17年4月 当社サッカー事業部副本部長</p> <p>平成21年4月 当社第五事業本部長</p> <p>平成22年12月 当社第五事業本部長兼B S 統括本部長</p> <p>平成24年4月 当社執行役員第二営業部長</p> <p>平成26年4月 当社執行役員営業本部長</p> <p>平成26年6月 当社取締役営業本部長</p> <p>平成29年4月 当社常務取締役営業本部長</p> <p>平成30年4月 当社取締役 常務執行役員 営業本部長 現在に至る</p>	25,400株
<p>取締役候補者とした理由 高橋智一氏は、当社営業部門における実務及び営業部門担当取締役としての経験・実績を有しており、当社グループにおける営業部門の強化並びに経営全般に関わる質的向上に必要不可欠であることから、引き続き取締役としての選任をお願いするものであります。</p>			

候補者 番号	氏 名 (生 年 月 日)	略 歴、 地 位、 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況	所 有 す る 当 社 株 式 の 数
4	なか じま こう ぞう 中 島 浩 三 (昭和30年5月16日生)	昭和54年4月 当社入社 平成7年4月 株式会社すぼ一つらんどコジマ代表取締役社長 平成13年4月 当社東京店店長 平成15年4月 当社B S 販売部副本部長 兼ゼットクリエイト株式会社ウェア事業部長 平成16年4月 ゼットクリエイト株式会社取締役 ウェア事業部長兼企画開発部長 平成19年4月 当社ネット事業推進部事業部長 平成22年4月 当社第三事業本部長 平成24年4月 当社執行役員MD・物流部長 平成26年4月 当社執行役員MD・物流本部長 平成26年6月 当社取締役MD・物流本部長 平成29年4月 当社常務取締役MD・物流本部長 平成30年4月 当社取締役 常務執行役員 MD・物流本部長 現在に至る	43,050株
取締役候補者とした理由			
中島浩三氏は、当社MD部門における実務及びMD・ネット部門担当取締役としての経験・実績を有しており、当社グループにおけるMD部門の強化並びにインターネットビジネスの更なる推進に必要不可欠であることから、引き続き取締役としての選任をお願いするものであります。			
5	はやし けん じ 林 賢 志 (昭和40年1月5日生)	平成23年11月 株式会社みずほ銀行 天満橋支店支店長 平成27年6月 当社入社 顧問 平成27年10月 当社管理副本部長 平成28年4月 当社執行役員管理副本部長 平成28年6月 当社取締役管理本部長 平成30年4月 当社取締役 常務執行役員 管理本部長 現在に至る	5,000株
取締役候補者とした理由			
林賢志氏は、金融業界における実務及び責任者としての経験・実績を有しており、金融・財務等の幅広い知識を活かし、当社グループにおける管理部門の強化並びに企業価値向上への貢献が期待できることから、引き続き取締役としての選任をお願いするものであります。			

候補者 番号	氏 名 (生 年 月 日)	略 歴、 地 位、 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況	所 有 す る 当 社 株 式 の 数
6	わた なべ せい じ 渡 辺 征 志 (昭和50年7月7日生)	平成14年4月 当社入社 平成19年4月 株式会社ブリリアンス代表取締役社長 平成23年4月 当社 I T 戦略統括本部ディレクター 平成24年6月 当社取締役 I T 戦略統括本部ディレクター 平成25年4月 当社取締役 I T 戦略本部長兼 I T 戦略室長 平成26年4月 当社取締役 I T 統括本部長兼 I T 戦略室長 平成29年4月 当社取締役MD・物流本部副本部長 兼第一販売部長 平成30年4月 当社取締役 執行役員 MD・物流本部副本部長 兼MD事業部長 現在に至る	126,500株
取締役候補者とした理由 渡辺征志氏は、当社子会社における代表者及び I T 部門・MD担当取締役としての経験・実績を有しており、当社グループにおけるMD部門の強化並びにインターネットビジネスの更なる推進に必要不可欠であることから、引き続き取締役としての選任をお願いするものであります。			

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 各取締役候補者は、平成29年6月28日に開催された当社第68回定時株主総会において承認決議を受けた「当社株式の大量取得行為に関する対応方針(買収防衛策)」について賛同しております。

第3号議案 補欠の監査等委員である取締役2名選任の件

監査等委員である取締役が法令の定める員数を欠くことになる場合に備え、予め補欠の監査等委員である取締役2名の選任をお願いするものであります。

補欠の監査等委員である取締役の候補者は、次のとおりであり、藪垣政治氏は監査等委員である取締役板橋裕氏の補欠としての取締役候補者、小林喜雄氏は監査等委員である取締役衣目修三氏及び碩省三氏の補欠としての社外取締役候補者であります。

当該補欠の監査等委員である取締役につきましては、監査等委員である取締役が法令の定める員数を欠くことを就任の条件とし、その任期は前任者の残任期間といたします。

また、本決議の効力は次回定時株主総会開始のときまでといたします。

なお、本議案に関しましては、監査等委員会の同意を得るとともに、当社における取締役の選定基準及び業務執行内容等を踏まえ、各候補者は当社の補欠の監査等委員である取締役として適任であるとの意見表明を受けております。

補欠の監査等委員である取締役の候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社株式の数
※1	藪垣政治 (昭和30年6月7日生)	昭和55年4月 当社入社 平成16年4月 当社コンパース東日本推進部副部長 平成19年5月 当社コンパース推進部事業副部長 平成21年4月 当社ウェア事業部長 平成25年4月 ゼットクリエイト株式会社常務取締役 平成30年4月 当社内部監査室長 現在に至る	7,100株
	補欠の監査等委員である取締役候補者とした理由 藪垣政治氏は、長年にわたり当社営業部門における要職及び子会社役員を歴任し、現場における実務や業務プロセス等に精通しており、その幅広い知識や実務経験を当社の監査体制に活かしていたため、補欠の監査等委員である取締役としての選任をお願いするものであります。		

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
2	こばやし よしお 小林喜雄 (昭和24年10月5日生)	昭和52年10月 公認会計士登録 昭和58年1月 公認会計士事務所開設 昭和58年2月 税理士登録 現在に至る (重要な兼職の状況) 公認会計士小林喜雄事務所所長 小太郎漢方製薬株式会社社外監査役	1,000株
<p>補欠の監査等委員である社外取締役候補者とした理由 小林喜雄氏は、公認会計士としての豊富な経験により培われた財務・会計に関する高度な専門性並びに会計士事務所所長としての経営に関する高い見識を当社の監査体制に活かしていただくため、引き続き補欠の監査等委員である社外取締役としての選任をお願いするものであります。</p>			

- (注) 1. 各補欠の監査等委員である取締役候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 補欠の監査等委員である取締役候補者小林喜雄氏は、補欠の社外取締役候補者であります。
3. 社外取締役としての職務を適切に遂行することができると判断する理由について
小林喜雄氏は、公認会計士として企業会計に精通し、企業経営を統治する十分な見識を有しておられることから、社外取締役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。
4. 補欠の社外取締役との責任限定契約について
当社は、小林喜雄氏が監査等委員である取締役に就任された場合、同氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づく会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。当該契約に基づく責任の限度額は、当社定款の定めにより法令が規定する最低責任限度額といたします。
5. 当社は、小林喜雄氏が監査等委員である社外取締役に就任した場合、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出る予定であります。
6. ※は新任の補欠の監査等委員である取締役候補者であります。

第4号議案 役員賞与支給の件

当事業年度末時点の取締役(監査等委員である者を除く。)6名及び監査等委員である取締役3名に対し、当事業年度の業績等を勘案して、役員賞与を総額7,800千円(取締役(監査等委員である者を除く。))分6,800千円、監査等委員である取締役分1,000千円)を支給いたしたいと存じます。

なお、各取締役(監査等委員である者を除く。)及び監査等委員である取締役に支給する金額は、取締役(監査等委員である者を除く。)については取締役会に、監査等委員である取締役については監査等委員である取締役の協議にご一任願いたいと存じます。

以 上

株主総会会場ご案内図



交通のご案内

JR西日本大阪環状線 桃谷駅より徒歩3分

(お願い) 誠に申し訳ございませんが会場には駐車場設備がございませんので
ご了承くださいませようお知らせ申し上げます。